

平成24年度第3回小牧市外部評価委員会会議録

- 1 開催日時** 平成24年8月31日（金）
午後1時30分～
開催場所 小牧市役所東庁舎5階 大会議室

2 出席者

(1) 外部評価委員会委員（敬称略）

椚山女学園大学 文化情報学部 教授	武長 脩行 ◎
名古屋経済大学 法学部 准教授	萩原 聡央
株式会社コモ 取締役会長	上田 浩二
(特)こまき市民活動ネットワーク 代表理事	松田 敏弘 ○
(特)こまき市民活動ネットワーク 副代表理事	秦野 利基
市民公募委員	小川 幸一
市民公募委員	崎元 正幸
市民公募委員	古澤 稔

◎委員長 ○委員長職務代理

- (2) 事務局 市政戦略課：小塚課長、舟橋課長補佐、矢本係長、宮本主事
(3) 傍聴者 2名

3 会議資料

会議次第

平成24年度小牧市外部評価結果報告書（案）

4 会議内容

- 1 あいさつ
・ 委員長よりあいさつ

2 議題

(1) 小牧市外部評価結果報告書について

(委員長)

それでは、議題（1）小牧市外部評価結果報告書について、事務局より説明をお願いします。

(事務局)

それでは、「外部評価結果報告書」について、説明をさせていただきますが、

本日は、ある程度のセクションで区切って、その都度、審議をお願いしたいと思いますので、よろしく申し上げます。

それでは、まず、あらためて報告書の構成について説明させていただきます。

まず、表紙の9月14日は、武長委員長にこの結果報告書を市長に手渡していただく日ということになります。

1ページ、「はじめに」は、武長委員長のあいさつです。事前にお配りしました、報告書案では作成中となっていましたので、本日、1枚紙で用意させていただいております。

2ページからは「外部評価の概要」で、評価の流れや判定区分など、今回の外部評価の概要です。

5ページからは「会議等開催経過」です。

9ページからは、評価委員の皆様のアンケート結果を基に作成した「外部評価の総括コメント」です。

13ページからは外部評価結果となっておりまして、まず、行政評価市民公開フォーラムの結果です。表題の番号が間違っておりまして、ⅣからⅤへ修正をお願いします。

そして、31ページ以降に「市民判定員の判定理由・改善案等」を掲載することにしました。こちらでも表題をⅣからⅤに修正をお願いします。

最後に57ページ以降に「模擬外部評価結果」を掲載しております。こちらでも表題をⅣからⅤに修正をお願いします。

なお、模擬外部評価については、評価委員の事前準備の一環として実施したものであり、外部評価結果報告書に掲載するかどうかは、今回の、第3回外部評価委員会で決めていただくことになっておりましたので、ここで一旦、切らせていただきまして、報告書の構成内容と模擬外部評価結果を報告書に加えることとしてよいかご審議をお願いします。

(委員長)

ありがとうございます。ただ今、事務局より、外部評価結果報告書の全体の構成について説明がありました。

それと、構成の中で、模擬外部評価結果が一番最後に掲載されていますが、模擬外部評価は、評価委員の事前準備のひとつとして実施したものであり、これを報告書に掲載すべきかどうか、この場で決めるということでもあります。

(松田委員)

せっかく評価をしたのだから、模擬も入れればよいと思います。

(上田委員)

今後の参考にもなるし、入れればよいと思います。

(委員長)

結果報告書は、インターネット等で公表されるのでしょうか。

(事務局)

市ホームページにも掲載されます。

(委員長)

それでは、模擬外部評価も報告書に入れることとしてよろしいですか。また、全体の構成はこれでよいですか。

(委員)

異議なし

(委員長)

それでは、全体の構成は案のとおりとします。

引き続き、報告書の内容について、事務局より説明をお願いします。

(事務局)

それでは、続きまして報告書の内容を順に説明をさせていただきます。

まず、1ページの「Ⅰ はじめに」についてであります。本日、配布させていただきました資料をご覧ください。こちらにつきましては、武長委員長と事務局で作成したものであります。記載内容について、読み上げさせていただきます。

(会議資料 「はじめに」を読み上げ)

続きまして、2ページをお願いします。「Ⅱ 外部評価の概要」です。

(会議資料 平成24年度小牧市外部評価結果報告書P. 2～P. 4 「Ⅱ 外部評価の概要」を読み上げ)

3ページの「4 評価対象事業」についてですが、現在の表現では、事業選定を外部評価委員会が行ったように読めてしまっていますが、事業選定はあくまでも市が実施しましたので、その旨が分かる文章に修正させていただきます。

続きまして、5ページをお願いします。「Ⅲ 会議など開催経過」です。

5ページが 第1回外部評価委員会の内容です。

6ページが 第2回外部評価委員会の内容です。

7ページが 模擬外部評価の状況です。

8ページが フォーラム当日の状況です。

9ページの上段が、本日、第3回外部評価委員会の内容です。

一旦、ここまでの内容で、ご意見などを伺いたいのので、ご審議をお願いします。

(委員長)

ありがとうございました。

ただ今、事務局より、9ページの上段まで、外部評価の概要やこれまでの会議等の開催経過について説明がありました。

「はじめに」に部分は、昨年度のものもたたき台にし、市民と行政の協働に関する部分も重要なので入れました。「はじめに」の部分は重要なところなので、委員の皆さんにも確認していただいて意見をいただきたいと思います。

昨年度は、経済が厳しいということで、もっと元気が出るような言葉がほしいとか、外部評価の目的がお金を減らすことが目的ではないということを入れるようにしました。大震災や円高にも触れました。

あとは、2ページの趣旨でも、事業仕分けと勘違いされないようにするとかあります。

ご意見、ご質問等のある方がいらっしゃいましたら、お願いします。

例えば、2ページの趣旨の1行目に「限られた財源」とありますが、私は、ここは「資源」という言葉にした方がよいと思います。

委員の皆さんの意見はどうでしょうか。

(上田委員)

これで問題ないと思います。委員長に一任でもよいです。それより、評価したものを市に実践していただくことが大事だと思います。

(委員長)

趣旨の部分はいかがでしょうか。

松田委員はいかがでしょうか。

(松田委員)

内容としては、問題ないです。

(委員長)

秦野委員はいかがですか。

(秦野委員)

委員の皆さんの意見でも、どういう風に手を加えると効果的になるか、どうしたら改善できるかという意見が多くありました。協働という観点や市民の人材を活かすという話も多かったですから、財源というより資源というのは、そのとおりだと思います。

「はじめに」の部分も、分かりやすく記載されていると思いますので、これでよいと思います。

(委員長)

古澤委員はいかがですか。

(古澤委員)

「趣旨」の部分の後半4行も、文章としては非常によいと思います。「はじめに」の部分もグローバルな視点からも述べておりこれでよいと思います。あとは、上田委員も言われたように、評価内容を市に実践していただくことが重要と考えます。

(委員長)

小川委員はいかがですか。

(小川委員)

「はじめに」の下から5行目、「現在の事業内容をそのまま実施すべきという事業は、ひとつもありませんでした。」という部分が一番のポイントになっていると思います。

(委員長)

崎元委員はいかがですか。

(崎元委員)

「はじめに」の部分については、市長に対してはこれでよいと思いますが、アンケートや判定シートに必要なことが全て書ききれているかが疑問です。担当部署の方には、議事録もしっかり読んでいただいて全ての意見を知らせていただきたいと思います。

(委員長)

その辺りはどうでしょうか。議事録は公開されるのでしょうか。

(事務局)

公開されますし、担当課には校正もさせます。崎元委員のご指摘のあった内容については、9ページ以降の総括コメントの中でも、担当課に対する厳しい意見も出されているので、その中で確認していただきたいと思います。

(委員長)

12ページの終わり部分のあたりに、「なお、特に担当課におかれては、議事録も含めて確認していただきたい」というようなコメントを入れていただくとよいと思います。

(崎元委員)

各事業のやりとりを確認していただくことが必要だと思います。

(委員長)

萩原委員はいかがですか。

(萩原委員)

2ページの趣旨はこのとおりでよいと思います。

1ページ「はじめに」の「外部評価の手法は、改革を継続されるための重要な手段」という記載がありますが、外部評価は、むしろ改革を行うにあたっての前提ではないかと思います。つまり、行政が事業をこのままでやっているのかどうかという部分を評価するわけですから、例えば「改革を継続させる前提として重要な手段」というのはどうでしょうか。

2ページの趣旨を見ますと、「評価視点の多角化」を図り、事業の充実や改善など建設的な提案を含めた評価」を行って改革を進めることになります。1ページの「改革を継続させるための」という部分に、2ページのこの部分を使ってみてもいいのではないのでしょうか。

(委員長)

事務局に案を書いていたいただきたいと思います。

(萩原委員)

他には、「外部評価（行政評価市民公開フォーラム）を実施した意義は、大変大きい」となっていますが、意義の中身が書かれていません。市長に対して述べるのなら、意義の中身もあった方がよいと思います。

「改革を継続させるための重要な手段」の中身が明らかになれば、その意義も自ずと見えてくると思います。ですから、その部分をしっかり書くことで、

それが意義ということになると思います。

もうひとつは、下から4行目の部分で、「市は判定結果のみを反映するのではなく」とありますが、何に反映するのかが書かれていません。行政、行政運営、行政改革等、何に反映するのかが書くと分かりやすいと思います。「反映」ではなく、「採用」でもよいと思います。

(委員長)

指摘いただいた部分は、たたき台を作って、事務局と私でまとめたいと思います。ただし、「反映」の部分で「採用」とした場合でも、評価内容が採用されない場合もあるわけですね。

(事務局)

採用されないこともあります。判定で拡充、現状維持、縮小というものが出されても、必ずしもこの通りではないということです。

(委員長)

他にはよろしいでしょうか。

それでは、引き続き、報告書の内容について、事務局より説明をお願いします。

(事務局)

続きまして、9ページの「IV 外部評価の総括コメント」についてであります。記載の内容につきましては、先日評価委員の皆様をお願いをしましたアンケートを基に作成したものであり、各委員さんからのコメントであることから、記載内容は、「である調」といたしました。

これ以前の記載内容が「ですます調」でここから「である調」に変わりますので、最初に「総括コメントについては、外部評価委員のアンケートを基に取りまとめました。」と記載いたしました。

(会議資料 平成24年度小牧市外部評価結果報告書P. 9～P. 12「IV 外部評価の総括コメント」を読み上げ)

以上ですが、事務局として反省しなければならない点は、この中でご指摘いただけたのかと思います。この「外部評価の総括コメント」内容について、ご意見や追加して記載してほしい内容などが無いのか、ご審議をお願いします。

(委員長)

ただ今、事務局より、9ページから12ページまでの外部評価の総括コメントについて説明がありました。

この総括コメントについて、小見出しをつけていただいておりますが、この構成でよいのかどうか、意見が全部入っているかどうかというところです。

まず、市民参加が少なかったことについて、議論したいと思いますがいかがでしょうか。昨年度の開催状況はいかがでしたでしょうか。

(事務局)

昨年度は、7月の組織変更後、予算を補正対応し、10月8、9日に開催し

ましたが、おまつりの時期ということもありましたし、場所も勤労センターだったということで、傍聴者が少なかったため、今年はまだ少し早い時期に、場所も市役所で開催しました。

今年も、他に、2,000人の方にアンケートで対象事業を選んでいただくことで、その方たちに興味を持っていただいて、フォーラムを見に来ていただけるのではという期待もありましたが、結果的には活かされなかったということで、事務局としても、今後どうしていこうかという思いはあります。

(松田委員)

2,000人にアンケートを出して、回答が来たのは何%くらいでしょうか。

(事務局)

26%くらいで500人くらいです。その中で、市民判定委員になっていただいた方が、延べ34人でした。当初は、もう少し応募がありましたが、直前になってかなり人数が減ってしまいました。

(古澤委員)

市民判定員の方は、交通費も出ず、食事のみ用意されるということで、お盆の時期の暑い中、市政に相当興味がないと、なかなか来られないと思います。

他には、傍聴の方もみえて、議事録もしっかり残るということで、企業経営者の方々と比べて、なかなか思っていることを上手に話せない、書けないという矛盾もあるかと思っています。

(委員長)

私は、小牧市の後、8月22日にも日進市で外部評価を行いました。平日ということもあったかもしれませんが、特定の事業に対して、傍聴者が多くみえましたが、それ以外の傍聴者は少なかったです。

小牧市については、2,000人へのアンケートと市民判定委員を導入したことはよいと思いますが、当日、もっと議員や職員の方も勉強にきてよいとも思いました。

今年の傍聴者は何人くらい来たのでしょうか。

(事務局)

傍聴者は、1日目は50人程度です。2日目は80人程度です。2会場に分かれていますし、1事業しか見ない方もいますので、1事業あたり傍聴者が数人ということもあったと思います。

職員も特に動員をかけなくても傍聴に来ていましたし、議員の方も多くみえていましたが、市民の方は少ないという状況でした。

(委員長)

公開でやるということが、目的というわけではなく、外部評価を公開という手法でやって、それをきちんと行政に反映させることが目的であるわけですが、しかし、わざわざ公開でやるために時間やコストをかける必要があるかという部分についてはいかがでしょうか。

(萩原委員)

外部評価を行うことと、公開で行うことは別問題と思います。外部評価の透明性を高めるために公開フォーラムを実施するという事です。だから、公開でやらないからといって外部評価の意義がなくなるわけではないはずです。

市民の傍聴者が少ないのは、もしかしたら、興味や関心のある事業が入っていないからなのかもしれません。例えば、原発問題等ですと、地元住民の関心も高く、傍聴者も多く訪れます。そうなると、市民の傍聴者が少ないのは外部評価で選定された事業に市民の関心がないからなのかもしれません。

そうであるならば、事業選定の段階で、何らかの形で市民の意見があってもよいのかもしれないと思うところもありますが、難しいです。

(委員長)

来年度以降、傍聴者を増やすといっても本当にできるかどうかは疑問です。しかし、外部評価は来年度以降も実施するわけですか。

(事務局)

来年度も実施するかは、報告書をいただいて、いろいろな結果を踏まえたうえで決定することになります。当然、実施するとなれば今年度からまた改善して実施することになります。

(委員長)

委員の皆さんとしては、来年度以降も実施するかどうかについてはいかがでしょうか。

(崎元委員)

市民参加が少ないのは、参加しているという気持ちが味わえないからではないでしょうか。傍聴者は、座って聞いているだけで、意見も言えず、質問もできません。言いたいことを文書にも残せません。ですから、よほど関心のある方でないと参加しないと思います。

市民判定員は、判定もできるし、意見も記入できるということで、まだそちらの方は参加する方がいます。

興味のある方は、意見も言いたいし、意見も書きたいと思いますが、ただ、それを傍聴者にも広げると大変かと思えますし、別の問題も生じるかと思えます。

(委員長)

私も、日進市を見ていると、市民参加は増えないのではないかと思います、それを工夫してできるかどうかです。市民公開フォーラムとしてやる以上、市としても、市民参加が多い方がよいと思いますが、どうですか。

(小川委員)

フォーラム当日、市民判定員や傍聴者の話を漏れ聞きましたが、「追求が甘い」と言ってみえました。追求するための場ではないから、その部分をあまり気にする必要はないとも思いますが、見ている人にはそういう気持ちもあるという

ことでしょう。

(委員長)

日進市でも、アンケートにはそういう意見がありました。ただし、時間は短いし、テレビで観た事業仕分けの影響もあるのかと思いますが、目的はそういうものではないわけです。

例えば、構想日本でやるようなものは、コスト削減の趣旨でやっているわけですが、問題は、小牧市として外部評価の目的をはっきりさせるということ、市民には事業仕分けに対する一般的なイメージが強くあるということです。

(事務局)

削減ありきで切り込むような手法もありますが、小牧市でやるものは、そうではなく、内部で評価したものに対して、市民も巻き込んだ外部からの評価を行うことがよいという趣旨でやっているの、その趣旨をきちんと説明しないと、傍聴者の方が誤解をしてしまうことがありますので、来年度も外部評価を実施する場合は、趣旨をしっかりと説明したいと思います。

(委員長)

10ページの(4)判定区分について、判定区分を変えるように書いてありますが、私は判定区分を毎年変えない方がよいと思います。判定区分を変えたり市民判定員を来年度なしにしたりすると、外部評価の軸がぶれてしまうような気がします。

(萩原委員)

判定区分については、来年度も同じでよいと思います。「民間委託等についての評価も必要になることも考えられる。」という記述については、私が似たような意見をアンケートに記載しましたが、民間委託するかどうかという議論とは別に、今回は事業ボリュームをどうするか集中したわけですから、そういうやり方で行うならそれでよいと思います。毎年、判定区分を変えると、市も混乱すると思います。ある程度、継続で行って、もし改善する場合には、その必要性を市から示していただく必要があると思います。

(松田委員)

大きなポイントは、職員が外部の人から評価された結果、どのように変わったかということだと思います。不満が出ているのか、よかったという声があるのか、どういう結果になっているのか教えていただければと思います。

(事務局)

事業の説明を行うことは、職員としての責務ではありますが、正直なところ、外部評価にあたった担当課は、あたってしまったという感覚があると思います。ただし、あたった以上、職員も評価結果を気にしますし、来年度以降の取組方針についても、担当課から事務局に相談がきたりします。評価結果が出た以上は、職員も自分たちの問題意識を持って取り組んでいます。

(萩原委員)

職員も評価結果を受け止めてしっかりやるということであれば、どのようにその後の事業に活かされたか、報告があれば、よりよくなると思います。

(委員長)

外部評価を実施したことで、次年度の事業シートの内容が変わらないといけないと思います。

(事務局)

昨年度、外部評価を実施した事業については、市の取組方針を策定したうえで、取組方針に従ってしっかりやるように、現在、主要事業実行計画の中で確認をしている最中です。

ただし、外部の団体等との関係もありますので、取組方針に書いたことがすぐに行えるわけではなく、団体や市民の理解を得るまでに時間がかかることがあります。それに向かって事務局が担当課をフォローするようにしています。

(委員長)

犬山市の外部評価は、公開ではなく内部で実施していますが、補助事業について、例えば8事業のうち3事業くらいは、あえて次年度も外部評価の対象にしています。そうすると、改善の確認もできます。ただし、公開という手法をとると、担当課は厳しく追及される可能性もあります。そういう手法について、松田委員はどう思われますか。

(松田委員)

同じ事業を2年続けて対象とすると、そうではない事業もあるわけで、職員としては何故なのかという疑問もあると思います。

それよりは、事業の内容について、短い時間の中でしっかり伝えるということについて、職員がまだ慣れていないように感じます。今回は、2,000人にアンケートを取って事業を選定したわけですが、できればもう少し時間を取って、職員にしっかり準備をしていただいて、目的や事業に対する思いを、きちんと筋書きを立てて説明できるようにしていただきたいと思います。

委員に伝わってこないから質問も出て、職員がしっかり答えられないから正当な評価が出ていない可能性もあると思います。そのあたりについて、職員にも向上を期待したいと思います。

(委員長)

担当課が自分の事業をよく勉強して準備すること、プレゼン能力を上げることが重要かと思いますが、上田委員はどう思われますか。

(上田委員)

私は、本当に市民に目を向けて事業を行っているかどうかで判定しようと思いました。

外部評価は今後も続けるべきだと思います。2,000人にアンケートを実施したわりには傍聴者が少ないとは思いましたが、来年度は3,000人でも対象にすれば

よいと思います。

それから、フォーラム開催についてもPR不足だと思います。開催場所については市役所で問題ないと思います。もっと公開でどんどんやっていくべきだと思います。

(秦野委員)

職員の方には、夢やビジョンを熱く語れる発表の場というくらいの気持ちで準備をしていただきたいと思います。こういう風に小牧市をよくしたいと語っていただきたいし、それで市民が逆に感化されることがあってもよいと思います。そういう場として、市民公開フォーラムがあって、小牧市をどうするかを議論する場になるような、やるならそこまでやった方がよいと思います。

(委員長)

崎元委員は、来年度やるべきかどうかについて、いかがですか。

(崎元委員)

続けるべきだと思います。職員が自分の仕事に対して勉強してのめり込むくらい臨んでいただければ、それが伝わってくると思います。はっきり言って、職員の皆さんは、小牧市に入るまでは優秀だったのだと思いますが、入った後は分かりません。

普通の会社の方は、自分の仕事についてはものすごく勉強すると思いますが、今回は、質問しても、質問自体が伝わっていなかったこともありました。

(委員長)

古澤委員はいかがですか。

(古澤委員)

原則としては、公開でよいと思います。

上田委員が言われたようにできればいいと思いますし、あまり職員に突っ込んでもという思いも多少ありますが、やる以上は、公開かインターネットで閲覧できるような、何らかの方法で市民に知らせる形でやるべきだと思います。

(委員長)

小川委員はいかがですか。

(小川委員)

秦野委員の意見に関連しますが、職員から、事業をやるうえでの情熱を感じられないというものはありました。語ってくださいと言われても語れないということは、一般企業ではありえないことです。

課長以下が来て、詳しいことが聞けるかというところでもないわけです。一般企業ならそれで業績が悪化すれば、弱い立場の派遣・パートといった自分の部下が職を失うこともあるわけです。そういうこと言えば、課長以上になった職員は、一般企業で研修でも受けられたらどうかと思います。

(委員長)

公開で継続すべきだけど、担当課はもっと責任を持ってやってもらいたいと

ということですね。

松田委員はいかがですか。皆さん大体、公開で継続すべき、あとはどういう形でいくかということですが。

(松田委員)

継続はしていただければと思います。3年目ぐらいまでやらないと結果も出ないと思います。

職員がいろいろな意味でスキルアップするきっかけにもなると思いますし、我々が行政の内部を見せていただくチャンスにもなりますし、それによっていろいろな効果もあると思います。

こういうオープンにする機会を市が持つということは、それだけ緊張感を持つことにつながると思います。

(委員長)

事業の選定方法はいかがでしょう。

(松田委員)

市民が直接見えるセクションと、全く見えないセクションがありますが、人事課の人事に関する評価の仕方等も、ある意味で公開すべきかだと思います。しっかりやっている人が評価される仕組みになっているのか、割を食っている人がいるのか、それによっても職員の意欲は変わります。内部のセクションの問題についても、この場で評価していくことも、ある意味大事な事かだと思います。

(委員長)

整理しますと、外部評価委員会としては、来年度以降も継続していただきたいということ、公開でいくこと、担当課についても熱意を持ってやっていただきたいということですね。課長職くらいで研修をやっていただきたいという意見もあります。

あとは、活動指標や成果指標をしっかり作っていただきたいということ、課長以下についても、しっかり勉強してほしいということです。

他には、例えば教育問題とか、市民が関心のある事業を対象とするようなやり方もありますが、難しい点もあるかと思います。

外部評価によって、職員のレベルアップにつながるのを頑張っていただきたいということです。

この内容について、事務局で整理して意見の中に入れていただきたいと思います。

(事務局)

分かりました。例えば、9ページの(2)の説明者の部分に、「職員は熱意を持って」という内容を加えたりします。

10ページの判定区分については、評価委員の皆さんのアンケートでは、6人の方が分かりやすかった、2人が普通、1人が分かりにくかったという結果

でしたが、記載させていただいたような改善の意見がありましたので、最終的に、事務局のほうで「さらにわかりやすく」という文言を加えましたが、先ほどの議論の内容から、来年度も同じ判定区分で実施した方がよいという内容に変えた方がよろしいですか。

(委員長)

最低でも3年間は市民公開フォーラムをやるべきであるということを冒頭に書いた上で、やり方を改善していくということによいと思います。

評価方法については、来年度は今年度の評価方法を踏襲し、説明等については、分かりやすい説明にするということですね。

あとは、市民参加について、PR不足という意見があります。不足かどうかは実際には分からないかもしれませんが、PR方法を考えるということですね。ただし、PR方法を考え、変えたからといって市民傍聴者が増えるかどうかは別の話でもあります。しかし、少ないからといって、公開でやる意味がないというわけではないです。公開で行うことで厳しい目にもさらされるわけです。

ですから、今後については、公開で職員のスキルアップにもつながるということを入れておきますか。

(上田委員)

私としては、より良い、活力ある小牧市にしたいという気持ちでやっています。

(委員長)

2ページの趣旨の部分に、「活力ある小牧市を作るために～」という部分も追加してみます。

それでは、引き続き、報告書の内容について、事務局より説明をお願いします。

(事務局)

続きまして、13ページをお願いします。「V 外部評価結果」です。

外部評価結果報告書に掲載する評価結果のまとめ方として、各評価委員の皆さんにフォーラム当日に記載いただきました判定シートの判定理由・改善案等を全て掲載したいと考えています。昨年度は、同様な意見をまとめたりしましたが、まとめてしまうと、一部の意見が省略されたり、評価委員の意図と違う文章になってしまうことがありましたので、全てを掲載した方が、外部評価の結果そのものではないかと考えました。

市としては、全ての意見を参考に、今後の取り組み方針や改善策を定めていきたいと考えています。

記載のルールとしては、班の判定となった区分を上位とし、それ以降は、拡充から順に記載いたしました。

なお、先日もお話しましたが、語尾を「である調」に統一するなどしたことから、判定シートの記載内容と若干異なっている部分があります。そのことによ

って、もし、ニュアンスが違うというようなことがあれば、修正をお願いします。

8月1日開催のフォーラム1日目及び模擬外部評価の結果については既に確認をお願いしておりますが、8月18日開催のフォーラム2日目と合わせまして、修正が必要でありましたら、本日の委員会終了後に、個々に確認をさせていただきますのでよろしくお願いします。

次に、31ページ以降の「市民判定員の判定理由・改善案等」についても、一部、事実誤認があるような意見を省いて、ほぼ全ての意見を記載しております。また、記載は、拡充から順に記載をしております。

最後に、57ページ以降に、先ほど報告書に加えることを決めていただきました模擬外部評価結果を掲載いたします。

(委員長)

ありがとうございます。ただ今、事務局より、13ページ以降の外部評価結果について説明がありました。再度、委員の皆さんに確認をさせていただきますが、V 外部評価結果については、判定シートの内容を全て記載することとしてよろしいでしょうか。なお、良いということでしたら、このままとし、各評価委員の記載内容に修正等が必要な場合は、会議終了後に対応ということになります。

4人の委員の意見が同じ場合は、同じ意見が4つ出てくるわけですか。

(事務局)

同じ意見であれば、同じ意見が繰り返し出てきます。ただし、全く同じ内容の文章はないです。ひとつにまとめてしまうと、何人の意見か分からないということがありますが、4つ載っていれば、4人がそのように言っているということがよく分かると思います。

また、委員の各事業に対する意見それぞれが、外部評価結果そのものだと思いますので、そのまま掲載しています。

(委員長)

それでは、13ページの下あたりに、「なお、コメントは委員の判定結果をそのまま載せています」というような内容を追加してください。

問題のある内容はありませんでしたか。

(事務局)

問題のある内容はなかったと思いますが、難しい言い回しを易しくしたものはあります。

(委員長)

それでは、内容の方について、意見はよろしいですか。

(上田委員)

分かりやすくてよいと思います。市民判定員の判定理由・改善案は市長にも渡されるわけですか。

(事務局)

渡します。

(委員長)

あとは、9月14日に私から市長へ手渡しますが、その際には、市民判定員も意見を記入しているので受け止めてやってください、外部評価委員会としては来年度も公開で継続を求めている、担当課にはしっかり準備をしていただきたいという意見もあったことを申し添えます。

他については、気付いた点があれば事務局に言ってください。

(萩原委員)

1ページの「はじめに」の部分に関してですが、先ほど、「活力のある小牧市」という意見が出ましたので、「活力のある小牧市を目指した改革を推進するためにも重要な手段と考えられます」という形でどうでしょうか。

あとは、先ほど、事務局から判定結果を参考という言葉がありましたが、下から4行目を「判定結果のみを参考とするのではなく」という形でどうでしょうか。「実施した意義」については、このままで結構です。

(委員長)

ありがとうございます。他にはよろしいですか。

それでは、次第の3、その他として何かありますでしょうか。

(事務局)

その他としまして、今後のスケジュールについてですが、本日、ご意見をいただきました点につきまして、修正をし、武長委員長には、9月14日金曜日の午後1時から、この結果報告書を市長に手渡していただく予定であります。

また、皆様には、同日、郵送させていただくとともに、ホームページに掲載をさせていただきます。市民判定員と傍聴者のアンケート結果も同時に郵送します。

結果報告書を受けまして、市としては、早急に、二次評価を行うと共に、「今後の取組方針」を策定し、次年度以降の予算に反映していきたいと考えております。

なお、「今後の取組方針」につきましても、策定でき次第、ホームページで公開するとともに、評価委員の皆様には報告させていただきます。

以上で、今後のスケジュールについて説明を終わります。

(事務局)

本日の議事は全て終了しました、最後に事務局よりお礼のあいさつをさせていただきます。

・市政戦略課長あいさつ

(事務局)

それでは、これもちまして、第3回小牧市外部評価委員会を終了させていただきます。委員の皆様、長時間にわたり誠にありがとうございました。